ナで読み取って集成したとのことである（河野氏私信による）. 分布図を異なる基図上に転写することは難事だったが，工夫のしようはあるものだと思った．巻末には共通の参考文献と種類ごとの参考文献のリストがある．

本書がわが国の植物の観察や調査に，新たな展望をもたらすことは疑いない．ただし内容はかなり高度なものなので，一般の人々に「こういう見方があるのだ」と普及させるには，もっとくだいた内容のものも期待したい．とくにこういう現象の共通で簡単な記録法があると，たくさんの人の参加が得られ，地域的な違いや新たな発見につながるだろう．千葉県植物誌で大場達之氏が提示したような手法が紹介されていたら，と考えた．分布図は多くの人の協力によるものが多いので，そういう場合には謝辞には仲介者よりも出典を記した方が，みんなのはげみになるだろう．

（金井弘夫）

□大場秀章：**サラダ野菜の植物史**　232 pp. 2004. ￥1,100. 新潮社. ISBN: 4106035375.

知らぬ間に最後まで読んでしまった．サラダに使われる野菜について，キク科，セリ科，アブラナ科，ウリ科，ユリ科，ナス科とまとめてあり，生植物ならなんでもサラダになるのではなく，大分部はいくつかの科に限定されるという，植物分類学的見地から入ってゆく．ここらが用途別に記述される通常の料理本とは異なる．巻末の植物名リストによると，学名を付されたものだけで180種類におよぶ．サラダの発祥は，古代の人類が，苦みや辛みがあるために草食動物が嫌って食べ残した結果，大繁殖した草原の植物を利用したのが元だという考察は面白い．中身は広範な古典の知識と著者自身の海外体験を踏まえて，種類の発見，導入，伝播，利用法の変遷からソースの種類にいたるまで，様々な話題が語られる．とくに学名や，欧州語に由来する和名についても，その語源にまで遡って蘊蓄が披露されていて，得るところが多い．最後のその他のサラダ植物では，今後発展しそうなサラダ植物まで言及されている．講義のタネ本としても有用だろう．

（金井弘夫）

□矢野正善：**カエデの本**　400 pp. 2003. ￥6,000（送料込）. 私版. No ISBN number.

著者はカエデの栽培家である．16–77頁は日本の野生種で，A4 版見開き 2 頁に 1 種類，80–346頁は栽培品種で，1 頁に 2 品種が，美しいカラー写真で示されている．野生種の部では，地域変異や生育時期による違いが，栽培家ならではの目で記述されている．野生種の部の末尾に「カエデを観察していて感じたこと」と題する短文があるが，図鑑に出てくる平均的寸法や形を割り出すことのむづかしさが，実感をこめて述べられている．葉形のいろいろな形が種ごとに示されているのもこのためだろう．またヤマモミジの変異性（地域的・生育期的）が大きいこと，その一方イタヤカエデ類は種の形質が安定しているのに，一般には分類がむづかしいとされていることなど，長年の栽培・観察から得られた知識が語られている．

この本の主体をなす園芸品種の部は，ふだん注意を払っていないために，こんなにいろいろな変化があるのかと感嘆するばかりである．品種名，学名，発表（登録）年，特徴，栽培上の注意などが簡潔に記されている．巻末にはカエデに関する文献約700件（年代順配列），月ごとの栽培管理法，園芸品種名索引，カエデの名所リストがついている．すべての文章に英文の対訳が伴っており，わが国のカエデを国外へ紹介する有用な資料である．希望者は前記代金を現金書留で著者（630–　奈良市　Tel　）宛て送付すること．

（金井弘夫）